

# 設計演習 II

## 06 1. 住宅設計

【担当教員】

山崎寿一（教授）近藤民代（准教授）山口秀文（助教）

島田陽（島田陽建築設計事務所）、山隈直人（神戸山手大学）

[Teaching Assistant]

楠目晃大（A62）富田 泉（A62）袋井 咲（A62）

開講年次：学部2回生 後期

## 【住宅課題2：将来の私の住宅】

自分が40歳になったときに住む独立住宅を設計する。

居住者構成やライフスタイルは設計条件として具体的に設定する。

## ■居住者構成とライフスタイル等の基本条件

自分が40歳のときに新築する独立住宅。

居住者構成、居住者のライフスタイル、住宅設計の基本条件は各自で設定すること。単身や親族以外の同居も可とする。居住者構成とライフスタイルに応じた空間構成や周辺環境を活かした設計を行う。

■敷地：別紙に示す敷地I・IIから選ぶ。敷地調査は各自で進める。敷地Iは指定の区域から1つの敷地を選定。

## ■構造・階数

自由に想定してよい。

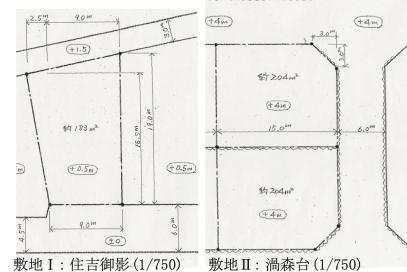
## ■所要室等

新たな暮らしへの提案も含むものが望ましい。

将来の居住者構成及びライフスタイルを想定して、創造的な住空間を構成すること。仕事場、アトリエや趣味の空間、二世帯住宅などを計画してもよい。喫茶店や文化サロン等を併設した併用住宅も可。

## ■提出物・用紙

- (1) 所用図面
- ①配置図兼1階平面図 1:100
- ②各階平面図 1:100
- ③立面図 1:100
- ④断面図 1:100
- ⑤模型写真（外観スケッチ、透視図でもよい）
- ⑥設計主旨・面積表
- (2) 用紙:A2版ケント紙（仕上げ、彩色等自由）

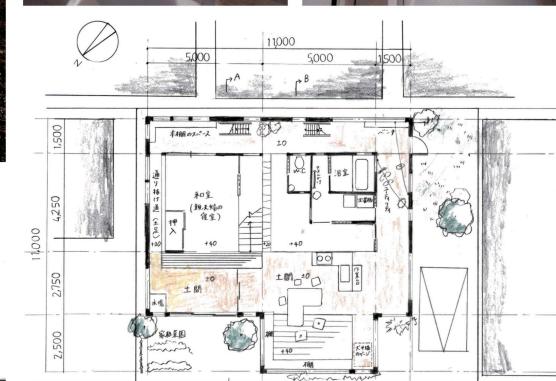


## 土間のある家

中川栄里

居間や台所とつながる家の土間と、家の周りを囲む裏の土間は、内と外をつなぎ、柔軟で多様な空間となる。

2つの土間のある家は、もっと風や日や緑を感じたり、気軽に外に出たり内へ呼んだりと、3世代のそれぞれがいきいきとすごせる暮らしを提案する。



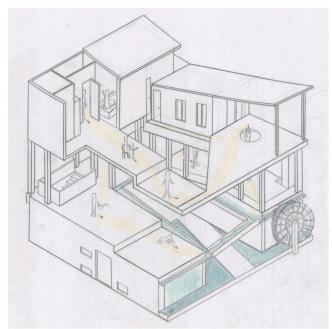
## 先導する銭湯

伊藤大輝

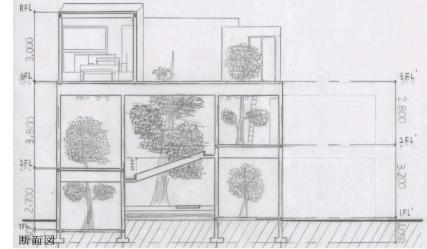
自分が住むのではなく訪れてみたい住宅をテーマに考えた。そこで自閉症を患う青年を想定し、また温泉の流れと人の流れに注目して彼でも働きやすく、地域の人々にも気軽に訪れてもらえるドッグ温泉兼住宅を設計した。



模型写真



アクソノメトリック



## かぞくの樹

山本修大

「家族のつながり」を取り戻す住宅を計画した。

樹木のように伸びる階段は放射状に重なるプロアへつながり、その隙間から光が木漏れ日のようにふりそぐ。

インナーガーデンと宙に浮いたリビングが心地よい空間を生みだしている。



断面バース



ダイアグラム



立面図



平面図